

## 令和元年度国有林モニター会議（山口）意見交換会概要

令和元年 9 月 28 日（土） 13:30 ～ 14:30

山口県岩国市 サンライフ岩国 小会議室

子供の時から山に囲まれて育ちました。今も山歩きやトレッキングを楽しんでいます。今日は檜皮の採取試験場所や複層林を見せていただいて、私の今までの知識が正しかったことがわかりました。林業については災害や水問題があり、海の魚も山から来る水がきれいでないと言われていると育たないと言われていました。私の田舎の方でも一生懸命植林しています。目に見えての成果や費用対効果をよく言われますが百年、二百年たたないとわかりません。国有林の管理に携わる方がサイドから見てもわからないところがあり難しいと思います。地元で絶えず国有林を見てきた身近な方に正式な成り立ちを理解してもらい育成していくことが大事だと思います。

資料の中で、山口県の森林面積で国が管理する国有林は約 3%ということですが少ない感じがします。どういうところが国有林なのでしょう。城山はお城があって観光地なのですが、ほかのところはどういうところなのでしょう。

国有林の林班を見ればどういう経緯で国有林になったのかがわかります。なお、当事務所管内では 1000 番台が買い入れた国有林となっています。

国有林の礎ができたのは明治時代です。藩有林や寺社の所有山林を国有林にしました。もう一つ大きな要因は、山に掛かる税金を払ってもらうことが明治から始まり、税金を払えば所有権が認められましたが、払えなければ所有者がいないということで全て国に帰属させました。このため西日本では国有林が少ないという事情があります。

後から国有林になったものは保安林として買い入れたものもありますが、もともとは今、説明させていただいたとおりです。

以前広島県に住んでいた時に、その議員さんと話をする機会があって山に興味を持つようになりました。以前割り箸は使わないキャンペーンみたいなものがありましたが、今は間伐材を使用したもので割り箸を作っていますか。

間伐材を有効利用するためには割り箸を使った方がいいということですね。そういうことがわかるような表示やキャンペーンを行った方がいいと思います。割り箸を使うようにします。

割り箸も全てが間伐材を使用しておらず、飲食店に置いてある白っぽい割り箸は輸入されたものです。竹で作ったものもあります。もちろん杉の間伐材で作られたものもあります。お店の利益を考えると値段の安いものが使われるので、環境への配慮の観点から、間伐材等で作られたものをもっと使用してもらおうようPRする必要があると思っています。

配付資料の「山口森林管理事務所の沿革」の中で昭和30年頃から民有林の買い上げと記載されていますが、現在も手入れが行き届かない民有林を積極的に買い入れているのですか。それと資料の国有林の面積についてですが、石川、福井、和歌山各県の国有林は分布が大きく表示されているのに、山口県の場合点状の表示しか出ていないのはなぜですか。また、数年前のモニター会議で広島署の事業箇所を見学しましたが、一箇所は土石流が一級河川まで流れ込んでいる現場を見ました。もう一箇所は、シカの捕獲罠を見せていただいて、ジビエとしてシカ肉を流通させようとするので、24時間以内に処理しないとイケないということでした。あとバケツに餌を入れていて、シカがバケツに首を突っ込んだ時に首をくくる罠もみせていただきました。広島署では苦労されていましたが、山口では、シカよりイノシシが多く出ると言う説明でした。シカに苦労されていることはありませんか。下関方面でシカが出るということでしたが。

現在、保安林としての民有林の買い入れは行っていません。石川、福井で国有林の分布が大きいのは、人が入っていかないような奥地に国有林が多くあるからです。先ほどの話の中で持ち主がわからない森林を国有林に編入したというところがありましたが、それも奥地の山林が多く含まれていたからです。山口県では、そういうところが少なかったということです。これからも民有林の買い入れ事例はほとんどないと思われます。

保安林としての買取りですが、戦後山々は「丸裸」になってしまい、市町村も予算事情がきびしく、造林もできませんでした。そのままでは、土砂災害が発生する恐れがあったので、特別措置法を制定して荒れた民有林を買い入れて国が整備しようということになりました。その後目的は達成できたとして、法律もなくなり、今後もまとまった民有林の買い入れはないものと思われまます。

広島の方がシカが多いです。下関、山口県中部の山及び東部の三県が隣接する山でモニタリング調査を実施した結果、下関方面でシカが多くなっていました。下関の国有林としては、小さな山が一つあるだけで、ほとんどが民有林のため県の獣害対策と一緒に駆除を行っています。毎年対策会議等を行い、県が中心となって対処しています。

以前アンケートの際に質問しましたが、鳥獣被害が多い北海道の業者が「オオカミロボット」を開発し、当初は前方しかセンサーが反応しなかったものを改良して 360 度で対応できるものになったというテレビ番組を見ました。そこで以前国有林でも活用できないかと質問をしたわけです。

山口県では、LED電球を使用して光を当てながら動物が近づかないようにする装置の検討を行っています。

畑なら「オオカミロボット」で対応できますが、山は広すぎてどこからシカが入ってくるかわからないため現実的ではありません。

どういう木を植えるかは、その時々で考え方が違うので変わってくるという話が先ほどありましたが、山についても林業用の山と観光用の山という新しい区分けで管理していくようになってきていると思います。しかし山をきれいなままで残そうとすると少しはお金をかける必要もあり、そうするとなんらかの活用が必要になると思います。たとえば古民家に商店を組み合わせると維持がしやすくなったりする例があるので、山も健康増進という企画で組み合わせると維持がしやすくなるのではないのでしょうか。急な山では難しいかもしれませんが、ウォーキングなどを組み合わせると、少々お金をかけてもうまく山の管理ができるかもしれないという思いを持ちました。

国民の皆さまに散策や森林スポーツなどを楽しんでいただくレクリエーションの森制度があります。

私は、福山市で育ち神石高原町に嫁ぎました。嫁いだ時は山はきれいでした。営林署もあって林業に携わる人も多かったです。「美林百年火事一瞬」という張り紙がありましたが、40年もすると段々山も荒れてきて、五年生の社会科の授業で「林業」の文字が消されたという時期もありました。子供たちもネットやゲームに夢中で、自然の中で遊ぶということが少なくなりました。私は今公民館に勤めていて月一回「子供体験教室」を催しています。この間は、近くで見ると割ときれいではない川に行って「川の生き物探しに挑戦」という企画を行いました。専門家から魚獲りのコツを教えてもらって深さ 30cm の川に入ってみたら四種類の魚が獲れて、見ている大人も感激してこの自然を守っていかなくてはいけないと強く思いました。子供たちにもこの自然の良さを知ってもらいたい。お金を得ることができなければ、子供たちは近くの工場に勤めてしまって山を守ろうという気にはならないと思います。林業のことをすごく考えていて、山を持っていたらお金持ちになれるようなシステムができればいいなと考えています。今度 11 月に植林体験を予定していますが、モニター会議に出席すればいろいろなことを学べると思い参加しました。

神石高原町は林業の盛んな町と聞いています。広島県三次市に広島北部森林管理署がございますので（森林教育に関するご相談があれば）お問合せください。

私の家のすぐ横は海です。子供の頃から上流の人たちが木をたくさん植えて自然を守っていないと、下流の海にもきれいなものが流れてこないと習っていて、私たちはできることをしようということで海岸清掃をしていました。岡山県の海岸部であまり森林には親しんではいないのですが、海岸の人も森林のことを切り離せないという思いから国有林モニターに応募しました。去年の西日本豪雨で倉敷市真備町で大きな被害が出ましたが、その時海を見ていたら大量の木材が流れ着いていて、やっぱり上流の森林とつながっているなど、上流で何かあれば流れ着いてくるのは海だと実感しました。そのことから（上流の問題も）みんなで共有していかなければいけないと思っています。

今回モニターに応募して、知識も何もなくて申し訳ないと思いますが、私のつまらない質問にも返答していただき恐縮しています。本日、現場の（森林管理局の）職員の方のお話や他の熱心なモニターの方を拝見しましてたいへん貴重な機会となりました。

森林組合や市町村の林務担当とはよく話をしますが、森林・林業についてあまり詳しくない方の意見は大事だと私たちは思っていますので、引き続きよろしくお願ひします。

モニターになって最初に感じたのは、「営林署」という言葉しか知らず、「森林管理局」、「管理事務所」という言葉を初めて知りました。昔に営林署の近くに住んでいましたが、山口県のどこに営林署があるかも知りませんでした。国有林の県別面積なのですが、最初に送ってもらった資料を見ると、山口県内の国有林はものすごく小さく、なぜかなと考えるとさっきの話のとおり歴史的な背景がありまして、江戸時代に山口県や鹿児島県は山林の調査をせずに全て藩のものになっていたことにつながるのかと思いました。私も少しは山を所有していますが、相続した山がどんな状態なのかわからないのです。山口県の場合、市町によって差があるのかわかりませんが、地籍調査が進んでいるところは、山の管理ができているようです。私が住んでいる下関市は地籍調査が進んでおらず、自分の山がどこまであるのかわかりません。私たちは国有林モニターなので、毎月林野庁の事業の資料をたくさん送ってもらっていて、国有林だけでなく民有林を含めた話がたくさん掲載されていますが、下関市では（事業が）進まないだろうなと思います。自分の山で伐採して造林しようにもどこまでが自分の持ち物かわからないことでは仕事になりません。下関市の山の状態は良くないと感じています。

自分の山がどこまでなのかわからない人がたくさんいまして、(所有者で) 村にも住んでいない人がたくさんいて問題になっています。みなさんご存じのように森林環境税を国民の皆さんから一人千円ずついただくことになるのですが、それをすべて都道府県と市町村に渡すことになります。市町村が(森林環境税を) 渡されて、境界の確定等の事業を市町村が主になって行うことになりますので、(おっしゃったことが) 明るい方向へ行くと考えています。

十年以上前になりますが、山口県も山づくり県民税を始めました。今回国でも同じことをするのかと初めて知りました。有効に使われたらと思っています。

今日最初にご案内していただいた帯状等高線伐採方法を見学しましたが、(私が所有する) 四、五十年前に植林した山が間伐もままならない状態で、迫ってくる感じでうっとうしくなってきました。本日見させていただいて、この方法なら今の経営管理としてもいいと思いました。今からでもできるものなのかお聞きしたい。

植林した時にどうするのか。けっこう木も大きくなっており、広島県の森林税を使って定期的に間伐はしてもらっているが、それに加えてこの帯状等高線伐採を行い、主伐林業ではなく、景観を重視した森林管理を考えています。四、五十年前に植林した山でも帯状等高線伐採は可能かどうか教えてください。

あの箇所は、景観を重視した管理で帯状の伐採を行っていますが、帯状ということは重力に逆らって横に材を引っ張ってくるので非常に手がかかり、手がかかるということはお金がかかってしまいます。

集材をせず、(伐採した木材を) 放置すればコストがかからないのではないですか。

それは大丈夫だと思います。横に帯状に伐採すると木は落ちてこないで公益的機能は高くなります。ただ重力に逆らうことになるので、それなりの技術のある者でないと横にはなかなか倒せません。

今は全伐をして伐り出してもそんなにお金にならない時代なので、景観を重視した経営管理が残された道と今日初めて知りました。もう少し木が小さい時に気がついていればと思いました。

このような横への帯状伐採は山口森林管理事務所が考えたのですか。

他の森林管理署でも実施しています。

家の裏に山がありまして、何年か前は中に入っていました。最近では熊やイノシシが出る恐れがあるので入れなくなりました。国有林では動物が出ることはあるのでしょうか。今は和箆筒を購入する人も少なくなり、木造家屋の建設も減りました。また自然災害も頻繁に発生しています。先生もたいへんで、助けにはならないかもしれませんが、木のことを小中学生から教育することはとても大切だと思うので続けてほしい。毎月二冊くらい冊子が送られてきて感想などを出すと答えが返ってくるのには感動しています。本日いただいた（カート缶の）お茶は、ストローがいるのでしょうか。コンビニでは売られていないので、もっと広めて欲しいです。

小学生を対象とした森林環境教育などを実施しています。引き続き活動を続けて「応援団」を育てていきたいと思っています。

カート缶は、ふたを開けていただければストローなしでそのまま飲むことができます。

小学校の同級生で木材問屋を営んでいる人がいました。今は（木材の取扱が減って）ビルの賃貸業でもしているのでしょうか。昔は林業は身近でしたし、山ももっときれいで、材木屋もたくさんありました。今は輸入材や違う素材を使用することが多くなっています。先ほどこれ以上国有林の面積は増えないというお話がありましたが、私有林では山林が相続の対象にならなくて国に物納してしまっていて国有林になっていることもあります。今後（林業は）どうなっていくのだろうと考えてモニターに応募しました。「林野」の8月号だったと思いますが、国有林と私有林との間で融通しあって流通することが掲載されていて、そういう集約化も重要だと思いました。関西では国有林が少ないので無理かもしれませんが。

先日の千葉県での台風による倒木被害は、明らかに私有林が放置状態になっていたために大きな災害につながったと思っています。テレビを見ていますと、親の代から山林を触っていないと言っていました。そのうち隣地が住宅開発されて民家に木が倒れかかって被害を大きくしてしまいました。

結局木を伐っても金にならない。金にならないから放っておく。そして物納されて国有林になっていく。これからを心配します。

森林環境税、森林環境譲与税を使って手の入っていない私有林を行政が肩代わりをして環境を整えていきたいと思います。森林環境譲与税を使って「この山は誰が持っているのか」、「ちゃんと管理をしているのか」というデータを持って、市町村が認定をしたやる気と能力のある業者に林業をしてもらいます。全部木を伐ってしまうのではなく、環境を維持する整備をしてもらうので期待してください。

私の住居の近くに西栗倉村とか真庭市と言うところがありますが、西栗倉村は林業の村で生きてゆこうと若者が多く入ってきています。真庭市はCLTという集積材を（建築材に）使っていこうとしています。東京オリンピックの施設にも使用されています。またバイオマス発電所で間伐材を使った発電も行われています。そのようなことから林業に興味があり、十年来、年に一、二度国有林の調査の仕事で山に入っています。そこでいろんな荒廃地を見ましたし、間伐されたところを測量しましたが落札されずに残っているところも見ました。

皆伐した時に（集材のために）重機を走らせると思いますが、山が削られていくことの弊害はあるのでしょうか。

国有林では環境に配慮した伐採を行っています。山口所では（現場が）奥地で小面積なので、そこで道を付けていくとつぶれ地が広がります。つぶれ地が多くなるようなところは従来の架線集材を行っています。ワイヤーロープを張って運んでいますので、重機を走らせてつぶれ地が増えるようなことは避けています。

架線集材を行うには技術とお金が必要です。今それをできる業者がほとんどいなくなっています。作業道については、後をしっかり管理することが必要になってきます。山で集材が終わったら路面を水が流れないように水切りをつけて横に流すとか、木の葉っぱや枝を作業道に敷いておくとかの作業を行っています。それをやらないとそこから崩れてきたり、泥水が流れてくることがあります。これからはそういうことを含めて考えないといけないと思います。

自然災害が多発している中で、森林の大切さを伝えていく活動を続けていってほしい。今話題の「働き方改革」で頭を悩ませています。農業が「スマート農業」に移行している中で、林業も「スマート林業」へ向かうべきだと思います。少ない予算の中で少数精鋭で事業を行う必要があります。今までのような人海戦術ではなく、レーザーやドローンを使い「安全・安心な林業」を構築して欲しいと思います。